

水ってなあに？

対象：0歳児クラス(おひさま組)
山川 結生

水をテーマとした理由と背景

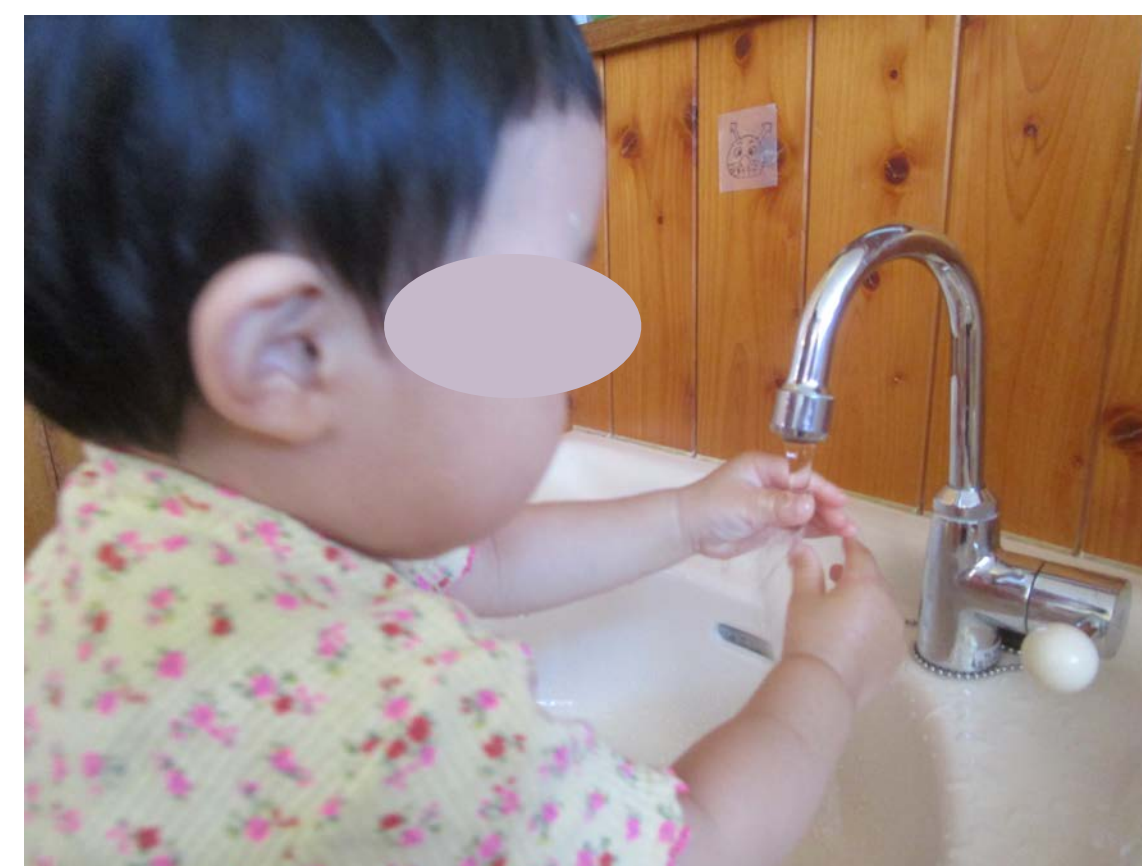
水遊びや手洗い、トイレを流す際など、子どもたちが水に興味を持っている姿が見られる。水は生活に欠かせないものであり、日常の様々な場面で子どもが水に触れる中で、水をどのようなものとして捉えているのか探ると共に、探求活動を通して水への興味がどのように変化していくのか知りたいと考えたため。

きっかけとなった子どもの姿

2024/7/5

水に興味を持ち始めた子どもたち。高月齢の子どもたち数人が、おむつ替えの後に手を洗うと、毎回のように水を指で摘もうとする姿が見られるようになってきた。また、トイレを流す際にも、必ずその様子を覗き込む。

その真剣な表情に、子どもたちは水に触れてどのようなことを考えているのか気になった。



問いを考える

子どもたちが水をどのようなものとして捉えているのか、水に触れることで何を感じているのか、また、水のどのようなところに面白さを感じて興味を持ってるのかという疑問を問いとして設定する。

環境をデザインする

水遊びの際に、タライやシャワー、ジョウロ、ペットボトルなど、様々な形で水に触れたり、水を掬ったり注いだりできる道具を用意する。また、水を使ったセンサリーマットやセンサリーボトルを用意して子どもがいつでも触れられるようにすると共に、手洗いや排泄といった日常の場面でも、子どもじっくりと水に触れたり、向き合える時間をつくっていく。

活動スケジュール

	日付	活動内容	時間	人数
1	2024/7/10	プール遊び	15分程度	3人
2	2024/8/20	水を注ぐ1	15分程度	3人
3	2024/8/21	水を注ぐ1	15分程度	4人
4	2024/8/26	水を注ぐ1、2	15分程度	6人
5	2024/8/28	水を注ぐ1、水を掴む	15分程度	6人
6	2024/9/6	水を注ぐ1	15分程度	6人
7	2024/9/2	水を注ぐ、水を掴む	15分程度	7人
8	2024/9/4	水を掴む	15分程度	3人
9	2024/9/19	自然の中の水「雨」	10分程度	8人
10	2024/9/30	水を貯める、水に浮く	20分程度	5人
11	2024/10/15	水を貯める	30分程度	5人
12	2024/11/29	大きな水溜まり	30分程度	6人
13	2024/12/18	小さな水溜まり	30分程度	3人
14	2025/1/8	水に沈む	30分程度	5人
15	2025/3/5	雪に触れる	45分程度	11人

プール遊びの開始

2024/7/10

●子どもの姿

プール遊びが始まり、水に触れる機会が増えた子どもたち。様々な玩具に触れ、少しずつ水遊びにも慣れてきた。

また、年上の子どもたちの水遊びの様子にも興味がある様子。0歳児クラスの子どもが見ていることに気がついた2歳児クラスの子どもが、窓に水をかけてくれた。いつもとは違った角度から、水をじーっと見つめていた。

低月齢の子どもは、水に入ると泣き出す姿もあったが、お湯を足すことで泣き止む様子もあり、温度の違いを感じ、自分の心地よい温度がわかっているようだった。

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー



水を注ぐ¹

水を注ぐ1

2024/8/20,21,26

●子どもの姿

8/20 ジョウロに水を入れて遊んでいる子ども。ジョウロの水が空になると、水に沈めると下から水が出てくる玩具を使って、水を注いでいく。

8/21 玩具を使って水を注ぐ遊びに夢中になっている様子。次の日にはその注ぎ口はさらに小さく、ペットボトルへ。

8/26 タライ台に小さな穴が空いているのを発見。指を入れたりして確かめると、また玩具を使って穴に水を注いでいく。

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー



水を注ぐ1

2024/8/28

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー

●子どもの姿

この日も、玩具を使ってタライ台の穴に水を注いでいた。そこで、そばにあったピッチャーを使って保育者も水を注いでみる。

すると、保育者の持っていたピッチャーに手を伸ばし、真似して水を注ぎ始める。

水を注ぎ終わると、ピッチャーの中を覗き込み、保育者の方をみて微笑む。



水を注ぐ1

2024/9/6

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー、ビニールプール、お玉

●子どもの姿

ペットボトルにジョウロを使って水を注ごうとする。うまく水が入らないと、周りを見渡し、何か良い道具がないか探していた。

お玉を使って入れようとしたり、他のジョウロに手を伸ばしていた。



水を注ぐ1

●保育者の気づき

- ・ プール遊びが始まってすぐは、様々な道具に触れ、遊び方を模索しているようだったが、回数を重ねることで道具の使い方を知り、自分のやりたいことを試しているように感じた。
- ・ ジョウロからペットボトル、タライ台の穴へと、どんどん注ぎ口が小さくなっていった。水を注ぐという行為に夢中になり、遊びを発展させていく姿に関心した。
- ・ 水を注ぐ道具も、玩具からピッチャー、ジョウロへと変化していった。それぞれの道具の特性や、どのように水が出てくるかを、繰り返し遊ぶ中で覚えていっているのだと感じた。

水を注ぐ²

水を注ぐ 2

2024/8/26

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー

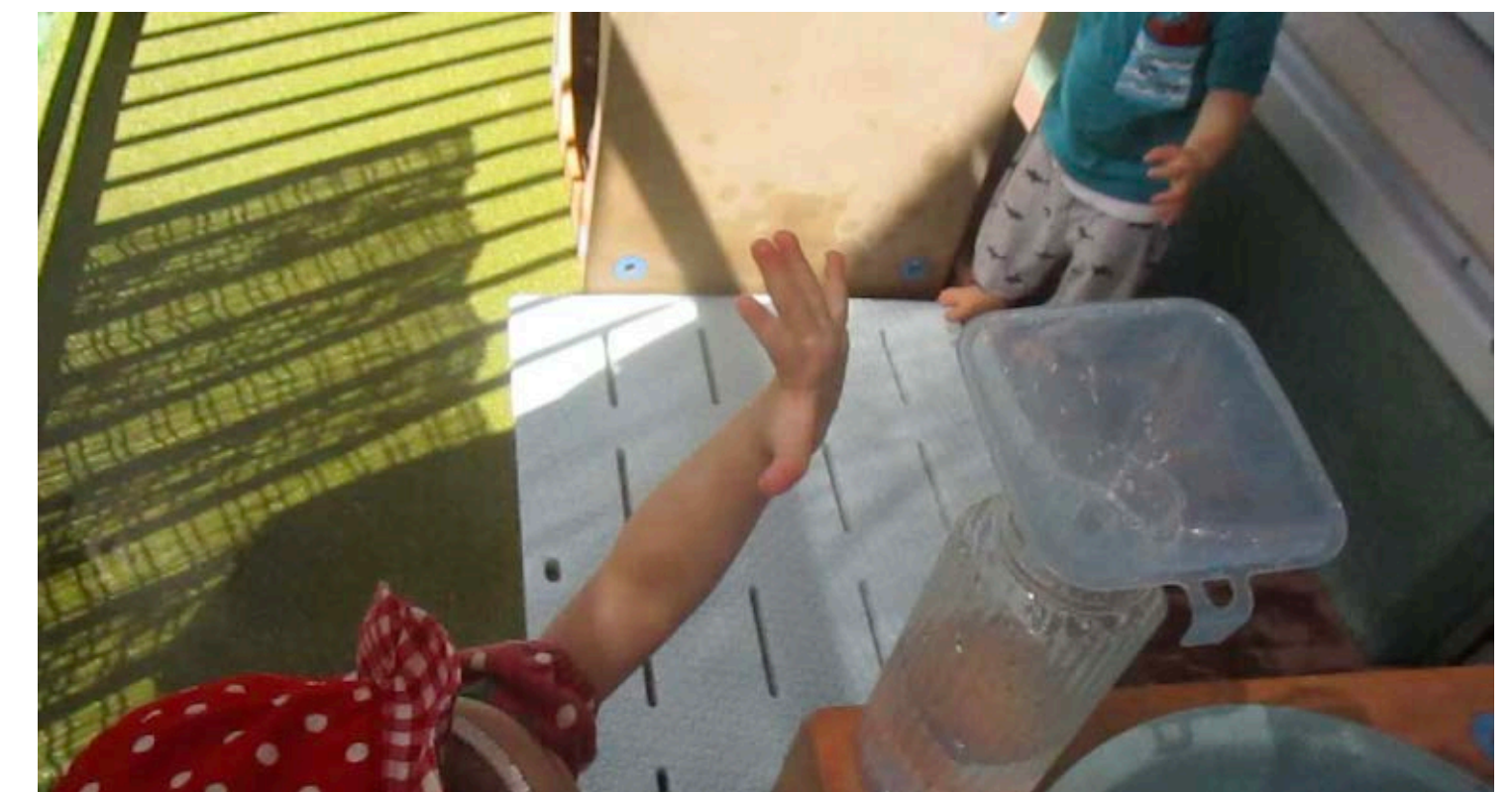
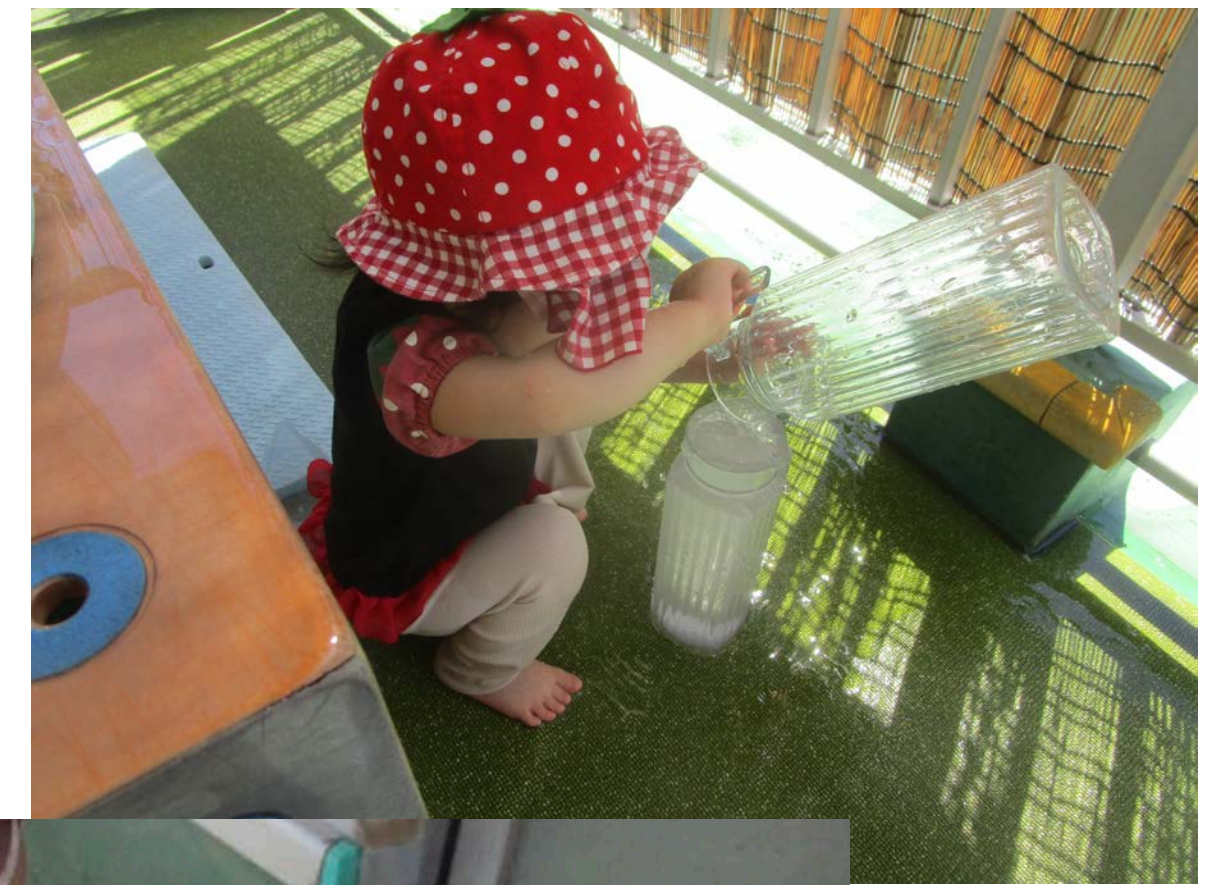
●子どもの姿

漏斗を使って水を掬おうとする。

上手いかず、ピッチャーを使って漏斗に水を注ごうとするが、ピッチャーが重く、上手く注げない。ピッチャーに入った水を地面に流していた。

次に、水鉄砲の玩具を使って水を入れてみる。ところが、水が流れていってしまう。保育者が漏斗を使って容器に水を注ぐと、それをじーっと見つめた後、漏斗を手にする。

興味は漏斗ではなくピッチャーの方へ移り、ピッチャーからピッチャーへと水を移し替えて遊んでいた。



水を注ぐ 2

●保育者の気づき

- ・はじめは漏斗に穴が空いていることに気が付いていないのか、水が流れていってしまいうことを不思議そうにしていたが、保育者の姿を見て漏斗の使い方を知り、漏斗に水を注いでも、水が貯まらないことに気が付いたようだった。
- ・ピッチャーは子どもたちには大きく、水がたくさん入っているとうまく持つことができなかった。しかし、水遊びの回数を重ねていくことで、水をたくさん入れるのではなく、少ない量を掬うようになり、水の重さの違いを感じているのかもしれないと思った。また、それがわかって水を地面に流しているようだと感じた。

水を掴む

水を掴む

2024/8/28,9/2

●子どもの姿

テーマを水に決めたきっかけでもある「水を掴む」という動きは、この時期になってもよく見られる。

保育者がタッパーに入った水を高いところから流すと、その水を掴もうとしたり、上を見上げ水の流れてくる場所を観察していた。

ビニールプールでは、細く飛び出す水に手を伸ばし指先で掴もうとしたり、両手を広げたり揺らしながら、水を触っていた。

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー、ビニールプール



水を掴む

2024/9/4

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー、ビニールプール

●子どもの姿

ビニールプールに穴が開き、水が勢いよく噴き出していた。

じっと手元を観察しながら、指先でゆっくり掴むように触れたり、手を速く動かして触れたりと、動きを変えてみたりする。



水を掴む

●保育者の気づき

- ・ 水が線状になっていると、子どもたちは水を掴もうとすることが多かった。
- ・ 掴めないとわかっていても、手に当たる水の感覚が面白いのか。手元をじーっと見つめながら水の動きを観察しているように見えた。水が手に当たることで生まれる不規則な動きに興味を持っているのかもしれないと感じた。

水に浮く、水を貯める

水に浮く

2024/9/30

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、ボール

●子どもの姿

水の入ったタライにボールを浮かべると、触ってみる子どもたち。

ボールはゆらゆら揺れて手から離れていってしまうが、それが面白いのか何度も触ってみる。



水を貯める

2024/9/30

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台

タライを水道の下に設置し、水が貯まっていく様子を観察できるようにした。

●子どもの姿

タライに水が当たる音や、「ジョボジョボ」と注がれていく水の音に気がつき、子どもたちが近くにやってきた。

上から細く注がれてくる水を指先で掴もうとしたり、バシャバシャと水を触る。手のひらを上に向けて、注がれてくる水を受け止めるようにして触っている子どももいた。



水を貯める

2024/9/30

●子どもの姿

蛇口の水の量を増やしてみると、指を出して手に水を当ててみる。

タライにも水がたくさん貯まってきて、バシャバシャと手を動かすと大きな水飛沫が上がる。

水飛沫が顔にかかり、嫌そうな表情の子どももいれば、それを面白がっている子どももいる。



水を貯める、水に浮く

2024/9/30

●子どもの姿

タライの水はどんどん溜まり、先ほどもでと同じように手を動かすとすぐに溢れてしまう。

初めはそのことに気がついていないようだったが、タライから水が溢れ、服が濡れると、驚いたように服に目を向ける。

そこへ、先ほどのボールを持った子どもがやってきた。

ボールを水に押し込むが、ボールは跳ね返ってくる。



水を貯める、水に浮く

2024/9/30

●子どもの姿

ボールに注がれてくる水を当ててみる。ボールに当たって跳ね返る水を触ろうとする子どももいる。何度も繰り返し、ボールを水に当てている。

タライの水をバシャバシャと揺らすと、それに伴うようにボールも揺れる。途中でそのことに気がつき、ボールをじっと見つめる。



水を貯める

2024/10/15

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台

水が貯まる様子がわかるよう、蛇口の近くにタライを設置し、水を徐々に注いだ。

●子どもの姿

別日にもタライに水を貯める活動を行ってみると、前は参加していなかった低月齢の子どもが近くにやってきた。

タライに貯まっていく水に手を伸ばすが、背が届かず指先しか触れられない。

注がれてくる水を掴もうとする子どももいる。



水を貯める

2024/10/15

●子どもの姿

だんだんと水位が上がり、水に手が届くようになる。

他の子どもたちも集まってきて、水飛沫が上がると、面白がって笑い声を上げる。

注がれてくる水を掴もうとしたり、手のひらで水を掬うようにして水を触り、顔を濡らしていた。



水を貯める、水に浮く

●保育者の気づき

- ・ ボールが水に浮かぶことで、普段とは違った動きをしていることに気が付き、その面白さを感じているようだった。
- ・ 水を溜めている際には、その音にすぐに気がついて、近くに集まってくる子どもたちの反応の速さに感心させられた。
- ・ 水圧を変えることで、手に当たる感覚の違いにも気がついているように感じた。
- ・ 初めは水が貯まっていくことに気がついていない様子だったが、水が溢れたことでそのことに気がついた様子の子どももいた。

自然の中の水 「雨」

自然の中の水「雨」

2024/9/19

●子どもの姿

午睡明け、突然に降り出した大雨。保育者がカーテンを開けると、音に気がついて子どもたちが集まってきた。

窓の近くに行ってみる子どももいれば、少し離れたところからじっと観察している子どももいる。

何度も指差して、保育者に外の様子を伝えようとしたり、ジャンプをしてはしゃぐ子どももいる一方で、怖がって保育者に抱っこを求める子どももいる。

●準備した物、環境の設定

子どもたちが雨に気づき、興味を持って観察できるように、カーテンを開けた。



自然の中の水 「雨」

●保育者の気づき

- ・ 何度も繰り返し窓の近くに行って、雨の様子を観察していた。また、雨の音を感じているようだった。
- ・ 普段、水遊びで触れている水と、雨の水が、同じ「水」であることに気がついている子どもはいるのか？

砂場遊びで水

大きな水溜まり

2024/11/29

●子どもの姿

園庭で遊んでいると、幼児クラスの子どもたちが作った大きな落とし穴を見つけた子どもたち。

保育者が穴に水を注いでみると、大きな水溜まりができた。そこへ砂を入れると「ぽちゃん」と音がし、それが面白かったのか、真似し始める。

水はだんだんと砂に染み込んで少なくなっていく、砂を入れていくうちになくなってしまった。

●準備した物、環境の設定

スコップ(大)、スコップ(小)、ジョウロ、ヤカン、ペットボトル、お椀、コップ、お皿



小さな水溜まり

2024/12/18

●子どもの姿

「大きな水溜まり」での姿を踏まえ、今度は小さな穴を掘ってそこへ水を入れてみた。

すると、前回は参加していなかった低月齢の子どもが2人近くにやってきた。

スコップや型抜きを使って水を掬おうとしたり、手を入れて触ってみる。また、掬った水を砂の上に繰り返し流していた。

●準備した物、環境の設定

スコップ(大)、スコップ(小)、ジョウロ、ヤカン、ペットボトル、お椀、コップ、お皿



小さな水溜まり

2024/12/18

●子どもの姿

水が砂に染み込んでなくなる様子をじっと見つめる。

保育者が再び水を注ぐと、水に手を入れたり、手を上下左右に動かしたり、泥を掴んだりして感覚を楽しんでいる様子。「パシャパシャ」と音が鳴ると、笑って保育者の方を見上げていた。

もう1人の子どもは、水の入ったヤカンに手を伸ばす。保育者がヤカンを手渡すと、ヤカンを逆さにして水を砂の上に流していた。



大きな水溜まり、小さな水溜まり

●保育者の気づき

- ・ 小さな水溜まりにすることで、大きな水溜まりのときには触れられなかった水に触れることができた。
- ・ 大きい水溜まりは高月齢の興味を引いたが、スコップを扱うのが難しく、歩行も安定していない低月齢の子どもたちは、小さい水溜まりの方が探求しやすい様子だった。
- ・ 繰り返し砂に水を流す中で、砂に染み込んでなくなる水を観察しているようだった。
- ・ 砂に水が加わったことで生じる感触の違いに気がつき、その面白さを感じているようだった。

水に沈んでいく砂

2025/1/8

●子どもの姿

砂場遊びにも慣れてきた子どもたち。保育者がヤカンに水を汲み持ってきて「お水入れていい？」と聞くと、頷く。

保育者が容器に水を注ぐと、そこへパラパラと砂を入れたり、砂の塊を指さきで水に押し込む2人。砂が水に沈み見えなくなると、「ないねえ。」と言って、繰り返し砂を入れていく。

また、容器に入った泥をスコップで掬い、別の容器に入れたり、さらに水を注いだりする。

●準備した物、環境の設定

スコップ(大)、スコップ(小)、ジョウロ、ヤカン、ペットボトル、お椀、コップ、お皿



水に沈んでいく砂

●保育者の気づき

- ・ 水の中に砂を入れ、見えなくなったのを「砂がなくなった」と考える子どもの発想に感心し、驚かされた。
- ・ 大きな水溜まり、小さな水溜まりでの活動の際は、沈んでいく砂にまで目線が届かない子どもが多かったが、小さい容器の中で行うことで、水に入った砂がどのようなのかを観察しやすかったのだと感じた。
- ・ 高月齢の子どもたちは、回数を重ねる中で自分でヤカンに手を伸ばして水を注いだり、容器を持って水道に行き、水を汲んでくるなど、水を使った砂場遊びの面白さに気がつき、自ら遊びを広げようとする姿が増えていった。

雪に触れる

雪に触れる

2025/3/5

●準備した物、環境の設定

スコップ、スプーン、タライ、ビニールシート、
タオル、コップ、お皿、ボウル、お玉、

はじめは雪そのものの面白さを感じられるよう、
道具は出さず、後半に道具を出すようにした。

●子どもの姿

雪を笑顔で触れる子どもが多い一方で、冷たさから
か、雪を嫌がり、遠くから眺めていたり、保育者が
雪を差し出しても首を振る子どももいた。

手のひらで握るように触ったり、ちょんちょんと慎
重に触る子どももいた。



雪に触れる

2025/3/5

●子どもの姿

道具を出すと、それぞれ道具を手に取り、スプーンやスコップで雪を掬ったり、コップに入れたりしていた。

コップに雪を入れて、ままごとコーナーに持っていく子どももいた。

後半になり雪が溶けてくると、そのことに気がつき、「水！」と言って水だけをお玉で掬ってコップに入れ、その水を床に流して遊ぶ子どももいた。



雪に触れる

●保育者の気づき

- ・ 雪が溶けると水になる、というのは0歳児の子どもたちには難しいかと思ったが、それに気がついて面白がる子どもがいて驚いた。
- ・ 後日、その子どもがお風呂に氷を入れて遊んでいたところ、溶けた氷を見て「氷、なくなっちゃった。」と大泣きしたという話が保護者からあり、雪遊びの経験が繋がっているように感じた。
- ・ 雪を入れたコップをままごとコーナーに持っていく姿からは、水と雪の関係性は繋がっていなくとも、それを水に見立てて遊んでいるのだと感じた。
- ・ 服についた雪が溶けたことで「濡れちゃった！」と着替えたがる子どももいて、そうした経験も雪が溶けると水になるということを知る過程の一つなのかもしれないと思った。

水への関わり方の変化

水への関わり方の変化

2025/1/14

●子どもの姿

春頃までは水道の水を見るたびに水を掴もうとしていた子どもたちだったが、だんだんとその姿は減ってきた。

高月齢は、水を前にすると手を洗うように擦り合わせるようになってきた。



水への関わり方の変化

2025/1/20

●子どもの姿

水道での水遊び。ここでも以前まで水を掴むことに夢中になっていた高月齢の子どもたちは、水を掴む動作をしなくなっていた。

その代わりに、容器に水を入れたり、おたまを使って水を掬うことに夢中になっていた。

一方で、低月齢の子どもたちは、水を掴むことに夢中になっていた。



水への関わり方の変化

2025/2/17

●子どもの姿

また、大きな水溜まりに出会った子どもたち。ほとんどの子どもたちが、水に濡れないように水溜まりの端を慎重に歩いていた。

そして、スコップやお玉を使って水を掬ったり、お皿を水溜まりに浮かべたりしていた。

一方で、真っ先に靴のまま水溜まりに入っていく子どももいた。



水への関わり方の変化

●保育者の気づき

- ・ 半年間、遊びや生活など、様々な場面で水と触れ合う中で、子どもたちの水への関わり方に変化が生まれていると感じた。
- ・ 高月齢の子どもたちは、「水を掴む」という探求から、別のものへ興味が移っていつているようだった。
- ・ 一方で、近くにいた1歳児クラスの子どもたちは複数の容器を使用して、水を移し替えたり、洗い物をするようにして遊んでいた。また、穴の空いた容器やザルなどを使っていて、0歳児クラスの高月齢の子どもたちより、さらに先を探求しているようだった。



振り返り、まとめ

- ・ 継続して子どもたちの水への関わりや遊びの様子を追っていく中で、子どもたちの姿の変化を感じることができ、とても興味深かった。日々、水との新たな出会いをしていく子どもたちと一緒に探究活動を行い、保育者自身も当たり前になっている水の面白さを再確認させられた。
- ・ 一方で、言葉での表現がほとんどない0歳児の子どもたちが、水をどのように捉えているのかを、その表情や行動から感じ取ることの難しさも感じた。雪や氷が溶けると水になることや、水に浮くもの、沈むものの違い、掴むことができず、形を変えていく水の面白さなど、0歳児の子どもたちがどれほど理解して楽しんでいるのかはわからないが、自然と水に手を伸ばし自ら関わっていく姿を見て、活動時だけでなく、日常の中で水に関わる全ての時間が、水の性質やその面白さ、不思議さに気がついていく過程の1つなのだと感じた。
- ・ この先、子どもたちの水への関わり方がどのように変化していくのか、どのような経験が子どもたちの水への認識を変えていくのかを、引き続き見守っていきたいと感じた。